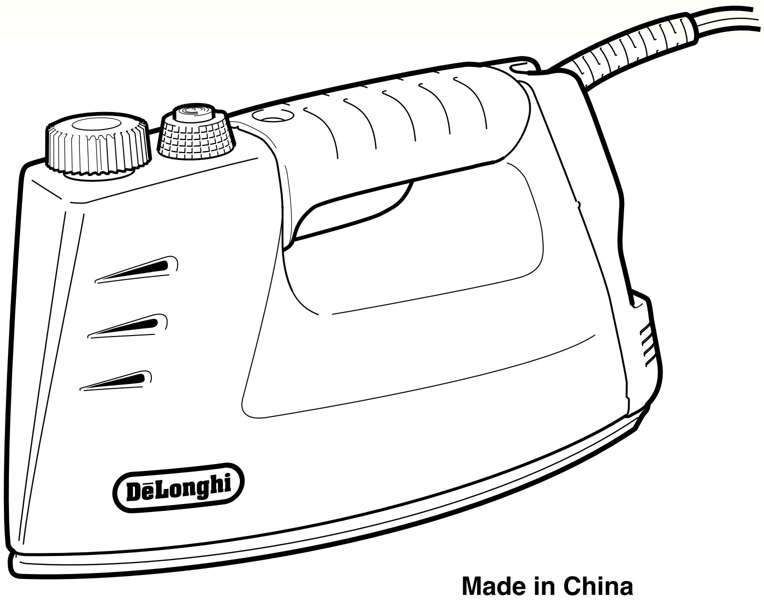
取扱説明書

デロンギ
ボイラー内蔵型スチームアイロン
型式番号 6299/2N

家庭用

この度は、デロンギ ボイラー内蔵型スチームアイロンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。
お求めの製品を正しく安全に使用していただくため、ご使用の前に、必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。また、お読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。



Made in China

- 強力スチーム
- 垂直スチーム
- 持ったままスチーム量を調節可能
- 適度な重さでしっかりプレス
- スチームを行き渡らせる５本のスリット
- 丈夫なセラミックのかけ面
- かけ面が低温度設計で、デリケートな生地に最適

もくじ

安全上のご注意　各注意事項を、必ずお守りください。

1. ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」を最後までお読みください。
2. ここに示した注意事項は、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への損害を未然に防止するものです。
3. 注意事項は、誤った取り扱いで生じることが想定される内容を、その危害や損害および切迫の度合いにより、「警告」と「注意」の２つに分け、明示しています。

⚠ 警 告	⚠ 注 意
この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	**この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。**

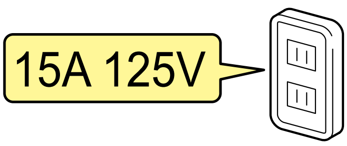
4. 各注意事項には、「禁止」または「強制」を促す絵表示が付いています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。			この絵表示は必ず実行していただく「強制」内容です。
:禁止	:接触禁止	:水ぬれ禁止	:指示を守る
:分解禁止	:ぬれ手禁止	:風呂・シャワー室での使用禁止	:電源プラグを抜く

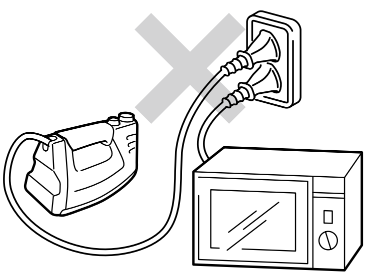
⚠ 警 告

電源／コンセントについて

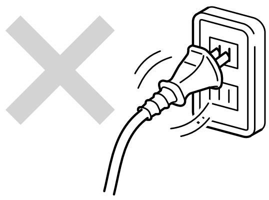
電源は交流100V(50/60Hz)で「15A125V」と記されている壁面のコンセントに直接差し込む
他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。



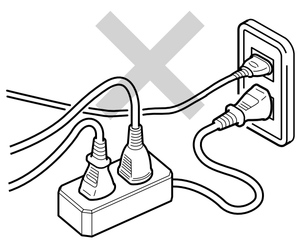
コンセントは本製品だけ（単独）で使用する
コンセントの差込み口が２つある場合は、片方の差込み口を使用しないでください。



取り付けの悪いコンセントは絶対に使わない
取り付けの悪い（ガタツキのある）コンセントや差込み口（刃受）のゆるいコンセントは、絶対に使用しないでください。感電や発熱の恐れがあります。



延長コードやテーブルタップ、ソケットなどは絶対に使わない
コンセントや電源プラグ／電源コードが異常発熱し、発火する恐れがあります。

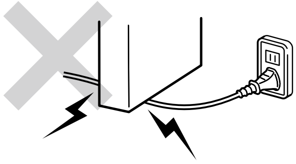


⚠警告

電源プラグ／電源コードについて

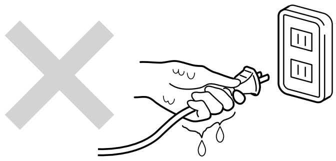
動作中に電源プラグを抜き差ししない
感電・火災の原因になります。電源プラグを抜く際は、必ず温度設定ダイヤルを反時計回りに回し切ってから行ってください。

電源プラグ／電源コードを破損するようなことはしない
電源プラグ／電源コードは、大切に扱ってください。無理に曲げたり、物を載せたり、束ねたり、傷をつけないでください。傷んだまま使用すると、感電やショート、発火などの原因になります。



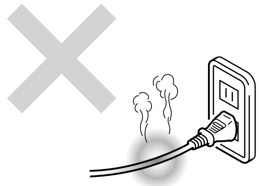
変形・破損している電源プラグ／電源コードは絶対に使わない
感電やショート、発火する恐れがあります。必ず、お求めの販売店または弊社サービスセンター（裏表紙参照）に、交換を依頼してください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電する恐れがあります。



使用の際は、電源コードが余っても束ねない
熱の逃げ場がなくなって高温になり、発火する恐れがあります。

電源プラグ／電源コードが異常発熱している場合は、温度設定ダイヤルを反時計回りに回し切り、電源プラグをコンセントから抜く
動作中に、電源プラグ／電源コードが異常に熱くなる場合は、直ちに温度設定ダイヤルを反時計回りに回し切り、コンセントを抜いてください。その後、お求めの販売店または弊社サービスセンター（裏表紙参照）に、ご相談ください。そのまま使用すると、ショートや発火する恐れがあります。

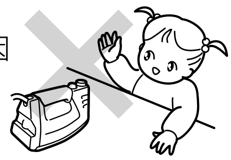


電源プラグは、根元までしっかりと差し込む
不完全な接続は、感電や発熱による火災の原因になります。

電源プラグやコンセントに付着しているホコリやゴミは、定期的に取り除く
ホコリやゴミが湿気を帯びると、ショートや漏電、発火などの原因になります。

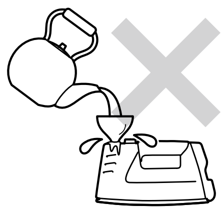
使用中／使用後について

お子様だけでは使わせない。幼児の手の届くところで使わない
ヤケド・感電・ケガの原因になります。

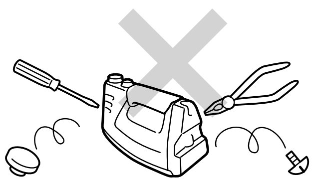


アイロンの近くで可燃性ガスが発生するもの（ベンジンなど）を使用しない。
火災の原因になります。

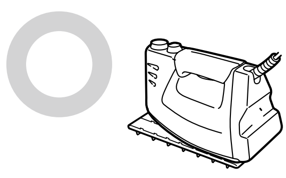
計量カップの規定水量以上の水をタンクに入れない
余分に水を入れると、スチームを使用したときに熱湯が噴き出し、ヤケドをする危険があります。

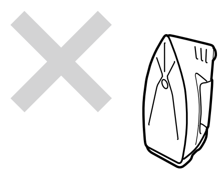


本製品を分解したり、改造しない
故障や発火の恐れがあります。



アイロンは、付属の耐熱性ゴムマットの上に水平に置く
本製品は水平置き型です。使用中や使用後にかけ面が熱くなっているアイロンは、絶対に立てて置いたり、付属の耐熱性ゴムマット以外の場所に置いたりしないでください。火災や故障の原因になります。

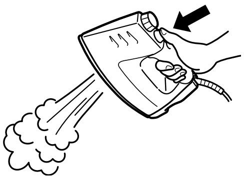




⚠警告

使用中／使用後について

ウォーター・キャップを開けるときは、必ずスチームを出し切り、プラグをコンセントから抜く
スチームが残っている状態で開けると、スチームが噴き出して、ヤケドをする危険があります。



異常が生じた場合は、使用を中止する
万一、異常が生じた場合は、直ちに温度設定ダイヤルを反時計回りに回し切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常な状態で使い続けると、事故や故障につながります。必ず、お求めの販売店または弊社サービスセンター（裏表紙参照）までご連絡ください。

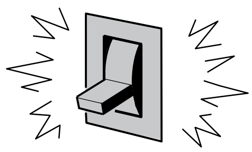
お手入れについて

本体のお手入れは電源プラグをコンセントから抜き、冷えてから行う
ヤケド・感電・ケガの原因になります。

⚠注意

電源について

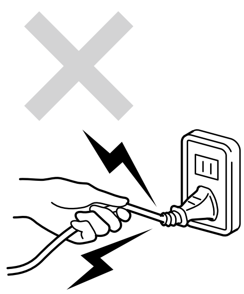
ブレーカーが落ちる場合には、電力会社に連絡する
使用中にブレーカー（分電盤内の回路遮断器）が落ちる場合には、お近くの電力会社にご相談ください。



電源プラグ／電源コードについて

使用中は、電源コードを本体に触れさせない
熱で電源コードが傷み、感電やショートの原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たず、必ず電源プラグを持って抜く
電源コードを無理に引っ張ると、破損、感電やショートの原因になります。



使用場所について

屋外や水／湿気の多い場所（部屋）、浴室、特殊な環境で使わない
ショートや感電の恐れがあります。また、硫黄などの硫化ガスが発生する場所や塩害の恐れがある場所で使用しないでください。故障の原因となります。

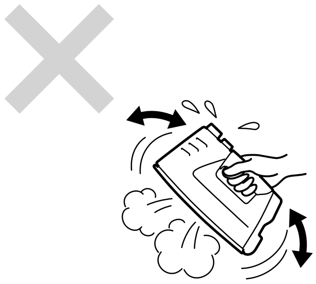
耐久性のある、乾いた平らな場所で使う
熱に弱い場所や不安定な場所では使用しないでください。故障や火災の原因になります。

⚠注 意

使用中／使用後について

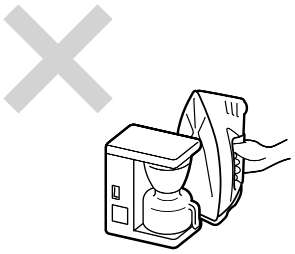
電源を接続している間、アイロンを放置してその場を離れない
感電・火災の危険があります。

アイロンを傾けたり、前後に激しく動かさない
湯滴が出て、ヤケド・故障の原因となります。



衣類に縫い針などを刺したままアイロンがけをしない
縫い針がアイロン内部に入り、ケガ・故障の原因となります。

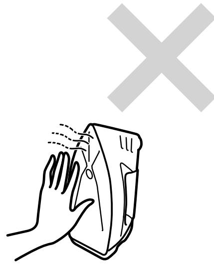
かけ面を他の電気製品や家具に触れさせない
変形したり、火災の原因になります。



他製品の付属品を組み合わせて使わない
故障・ケガ・火災の原因になります。

スチームに触れない
スチームに触れたり、スチームを人に向けたりしないでください。また、衣類を着用したままスチームをかけないでください。ヤケドの原因となります。

使用中および使用直後はかけ面に触れない
かけ面は高温になっています。使用中および使用直後しばらくは、絶対に触れないでください。ヤケドの原因になります。



アイロンを置くときは、スチームを出さない
アイロンを耐熱性ゴムマットの上に置くときは、必ずスチーム・ダイヤルを反時計回りに回し切ってください。また、スチーム・ボタンを押さないでください。ヤケド・故障の原因となります。

本体が転倒、落下したときは使用せず、点検を依頼する
感電や火災の恐れがあります。

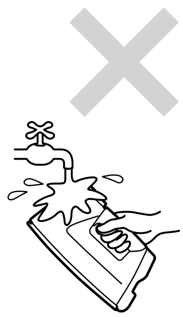
タンクに水を注入するときは、電源プラグをコンセントから抜く
感電の危険があります。

アイロンの設定温度を変更するときは、温度設定ダイヤルが熱くなっているので注意して行う
アイロンを高温設定で使用しているときや使用直後は温度設定ダイヤルも熱くなっているため、注意して行ってください。

使用時以外は、必ず電源プラグを抜く
絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。

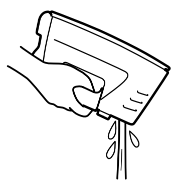
お手入れについて

絶対に水に浸したり、水洗いしない
故障や感電の原因になります。



研磨剤、クレンザー、シンナー、ベンジン、金たわしなどは使用しない
本体の表面が変質し、はがれ・変色・樹脂部品の割れの原因になります。

使用後は、必ずタンクの水を捨てる
水の入った状態で保管すると、故障の原因になります。

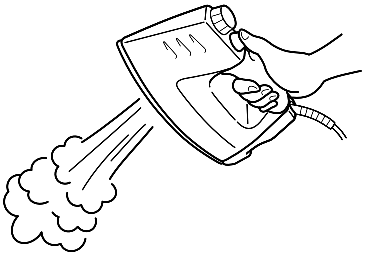


本製品の特長

強力スチーム

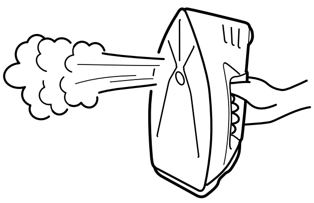
内蔵の加圧ボイラーで水を沸騰させてスチームを発生させるため、連続して強力なスチームが出ます。強力スチームが繊維にしっかり浸透し、ニットや厚手の素材もしっかりと美しく仕上がります。

※スチーム最大量の設定で、約 10 分間、連続してスチームを出すことができます。
（規定水量約 200mL の水を入れた場合）



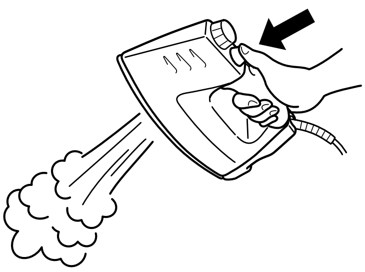
垂直スチーム

垂直に持った状態で連続してスチームを出すことができます。洋服をハンガーにかけたまま、すばやくシワを取ることができるので、型くずれの心配もありません。タバコのにおいや静電気を取るときにも便利です。



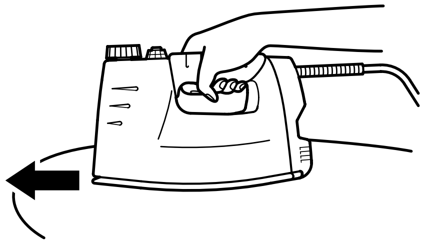
スチーム量は、スチーム・ボタンの押し加減で調節

アイロンを持ったままスチーム・ボタンでスチームの量を調節できるため、用途に合わせてスチームを出すことができます。



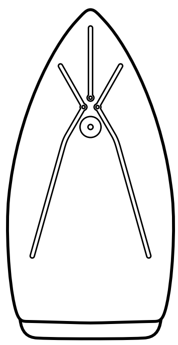
適度な重さでしっかりプレス

1.8kg の適度な重さで、力を入れ過ぎることなく楽にしっかりプレスできます。



スチームを行き渡らせる 5 本のスリット

かけ面には、スチームを衣類に行き渡らせるように、5 本のスリットが付いています。穴あきタイプのアイロンよりもかけ面の面積が広くなるため、洋服をパリッと仕上げることができます。

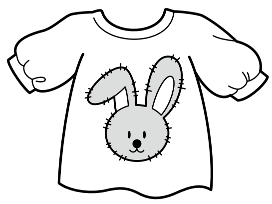


丈夫なセラミックのかけ面

かけ面は、丈夫ですべりがよいセラミック･コーティングを採用しています。

かけ面が低温度設計

かけ面が低温度設計のため、デリケートな生地に最適です。

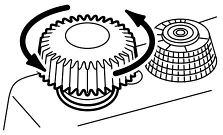


各部の名称とはたらき

本体

ウォーター・キャップ
注水口

反時計回りの方向に回して外すと、注水口があらわれます。キャップにはパッキンが付いています。
（17 ページ参照）



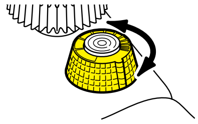
警 告

- タンク内にスチームが残った状態では、絶対にキャップを開けないでください。
- スチーム使用後にキャップを開けるときは、スチームを出し切った後、必ずキャップリムーバーをはめてください。

スチーム・ダイヤル
＜連続スチーム＞

スチーム･ダイヤルを回して、スチームの量を調節します。

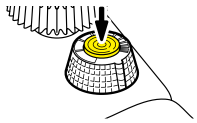
[スチーム･ダイヤル]

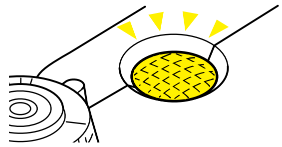


スチーム・ボタン
＜ショットスチーム＞

スチーム・ダイヤルを反時計回りに回し切り、スチーム・ボタンを押します。

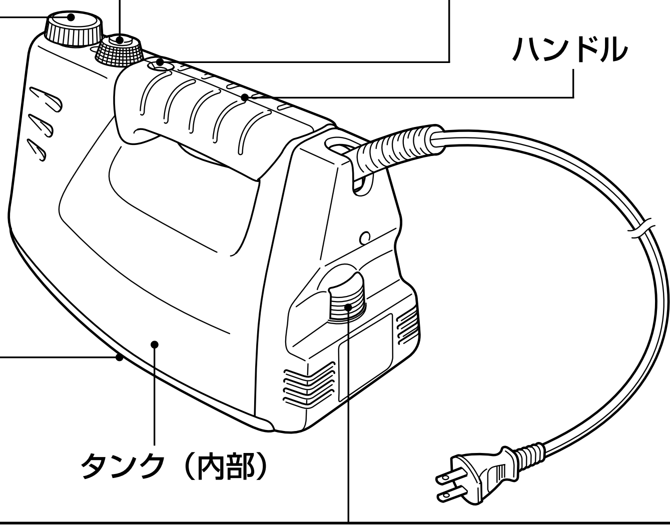
[スチーム･ボタン]





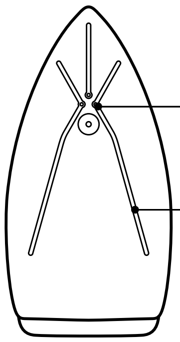
パイロットランプ

適温になると消灯します。
※ 使用中は、ボイラー内の温度を調整するため、パイロットランプが消点灯を繰り返します。



かけ面

セラミック・コーディングを採用しています。

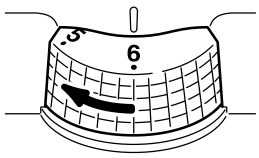


スチーム噴出孔

スチームが出ます。

スリット

スチームを衣類に行き渡らせます。



温度設定ダイヤル

かけ面の温度設定ができます。

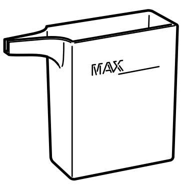
注 意

- 使用中や使用直後は、ダイヤルも熱くなっています。ヤケドをしないよう十分にご注意ください。
- 電源プラグを抜き差しするときは、温度設定ダイヤルを反時計回りに回し切ってから行ってください。

付属品

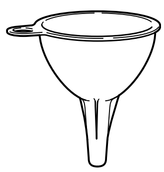
計量カップ

スチーム用の水を入れるときに使用します。
「MAX」までの容量は、約 200mL です。



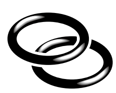
じょうご

アイロンに水を入れるときに、注水口に差し込みます。



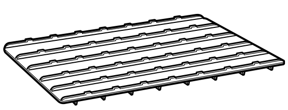
スペアパッキン(2 個)

ウォーター・キャップのパッキンが切れたり、消耗したときに使います。



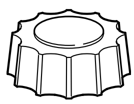
耐熱性ゴムマット

使用中や熱くなっているアイロンは、必ずこの上に水平に置きます。



キャップリムーバー

スチームを使用して熱くなったウォーター･キャップを開けるときに、はめます。



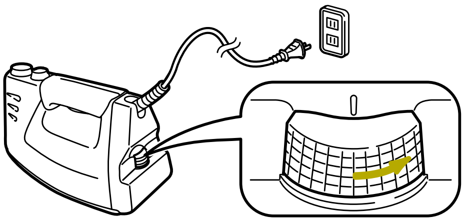
スチームアイロンとして使う

準備：注水手順

アイロンのタンクに水を入れます。

1 確認する

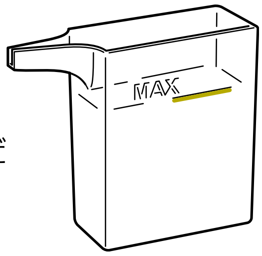
電源プラグがコンセントに差し込まれていないこと、温度設定ダイヤルが反時計回りに回し切った位置になっていることを確認します。



2 付属の計量カップに水を入れる

「MAX」の位置（約 200mL）まで水を入れます。

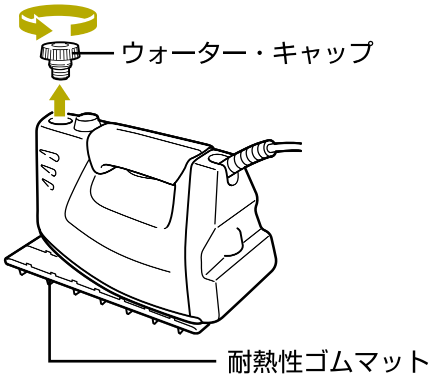
※ 蒸留水や井戸水、リネンウォーターのような香料を含んだ水など、上水道の水以外を入れないでください。



3 アイロンを水平に置き、ウォーター・キャップを取り外す

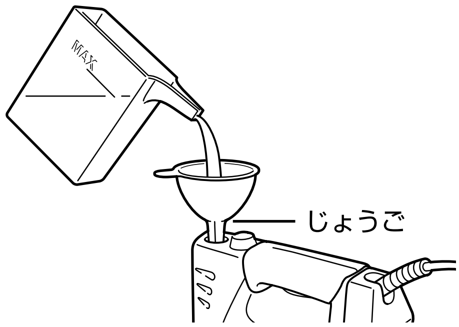
付属の耐熱性ゴムマットの上に、アイロンを水平に置き、ウォーター・キャップを反時計回りに回して取り外します。

※ 初めてお使いになるとき、注水口に白い跡が残っている場合があります。これは、工場の出荷前テストで使用した水に含まれるカルキ分で、ご使用上問題はありません。



4 水を入れる

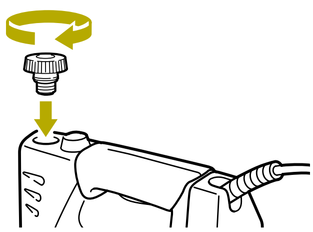
付属のじょうごを使って、計量カップの水をゆっくりと注入します。
初めてスチームアイロンとして使用する場合は、はじめに規定水量の水でタンク内をすすぎ、水を捨ててください。その後、再度、規定水量の水を入れてご使用ください。



警 告
計量カップの規定水量（「MAX」の位置＝約 200mL）以上の水をタンクに入れないでください。余分に水を入れると、スチームを使用するときに熱湯が噴き出して、ヤケドをする危険があります。

5 ウォーター・キャップを閉める

水を入れたら、ウォーター・キャップを時計回りに回してしっかりと閉めます。

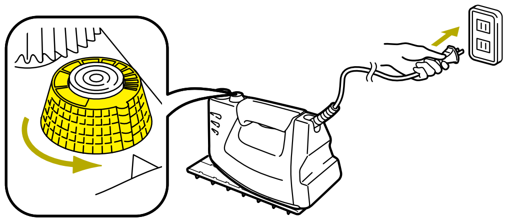


使いかた アイロン台は、スチームが抜けやすいものをご使用ください。

1 電源を入れる

スチーム・ダイヤルを反時計回りに回し切り、電源プラグをコンセントに差し込みます。

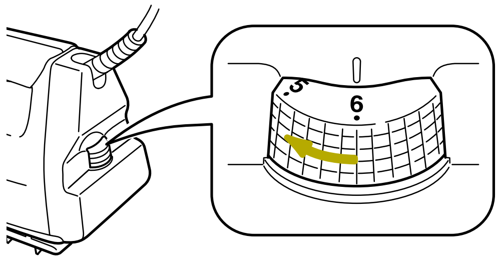
※初めて使用する場合は、かけ面や内部ボイラーが熱になじむまで、多少のにおいが出ることがありますが、ご使用上、問題はありません。



2 アイロンの温度を設定する

温度設定ダイヤルを「6」の位置に合わせます。
パイロットランプが点灯します。

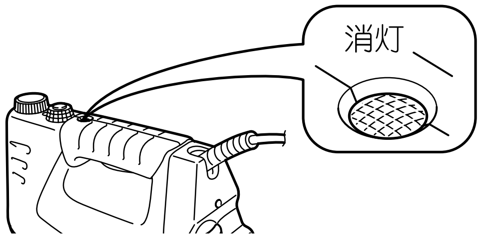
※温度設定が低いと、十分なスチームが発生しません。



3 適温になるまで待つ

適温になると、パイロットランプが消灯します。
パイロットランプが消灯したことを確認してください。

※温度設定をしてから、約４～５分後(目安)にパイロットランプが消灯し、スチームが使用できるようになります。



4 スチームアイロンをかける

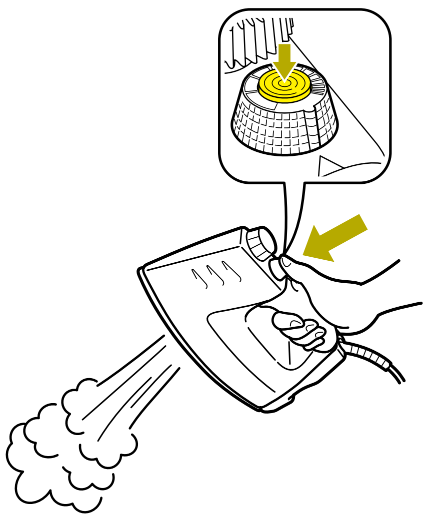
手動でスチームを出してかける（ショットスチーム）ことも、自動でスチームを出してかける（連続スチーム）こともできます。
最初に、目立たない場所で試しがけをしてください。

ショットスチーム （手動でスチームを出す（断続的に出す）場合）

スチーム・ダイヤルが反時計回りに回し切られていることを確認し、スチーム・ボタンを押します。

ヒント スチームの量は、スチーム・ボタンを押す加減で調節できます。強く押すとスチームの出る量が多くなり、軽く押すと少なくなります。

※使用中は、ボイラー内の温度を調整するため、パイロットランプが消点灯を繰り返します。
※スチームの出が悪くなったときは、「水の足しかた」（11 ページ）を参照し、水を足してください。

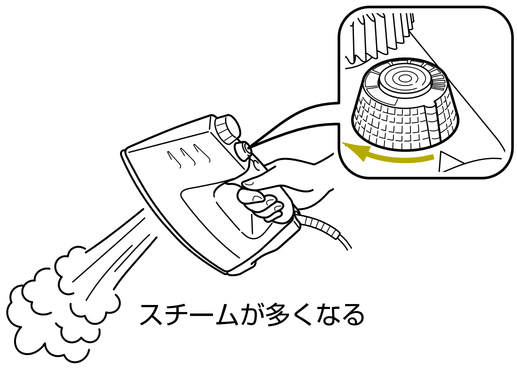


連続スチーム （自動でスチームを出す（連続的に出す）場合）

スチームの量を調節しながら、スチーム・ダイヤルを時計回りに回します。
かけ面のスチーム噴出孔からスチームが出続けます。

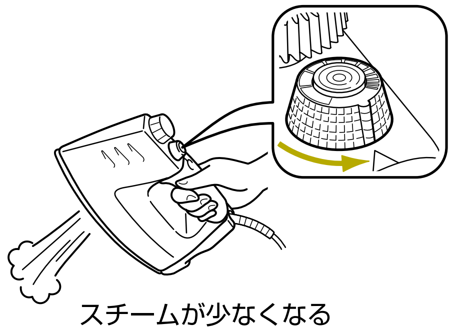
※アイロンを置くときは、必ずスチーム・ダイヤルを反時計回りに回し切った状態にし、スチームを止めてください。

スチーム・ダイヤルを時計回りに回すと…



ヒント
- スチームの量は、スチーム・ダイヤルを回す加減で調節できます。時計回りに回すとスチームの出る量が多くなり、反時計回りに回すと少なくなります。
- スチーム最大量の設定で、約 10 分間の連続スチームが可能です。
  ※規定水量約 200mL の水を入れた場合

スチーム・ダイヤルを反時計回りに回すと…



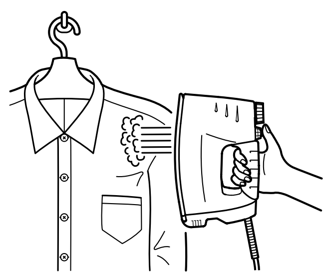
警告
- スチームを使用しているときや、使用直後でまだタンク内にスチームが残っている状態では、絶対にウォーター・キャップを開けないでください。スチームが噴き出して、ヤケドをする危険があります。

注意
- アイロンは、**必ず付属の耐熱性ゴムマットの上に水平に置いてください。**使用中や使用直後のかけ面が熱くなっているアイロンは、絶対に、立てて置いたり、耐熱性ゴムマット以外の場所に置いたりしないでください。火災や故障、ヤケドの原因となります。
- 使用中や使用直後は、アイロンのかけ面だけではなく、ウォーター・キャップや温度設定ダイヤルの周辺も高温になっています。ヤケドをしないよう十分にご注意ください。

垂直スチーム

垂直に持った状態で連続してスチームを出すことができます。洋服をハンガーにかけたまま、すばやくシワを取ることができるので、型くずれの心配もありません。タバコのにおいや静電気を取るときにも便利です。

※スチームの出が悪くなったときは、「水の足しかた」（11 ページ）を参照し、水を足してください。



5

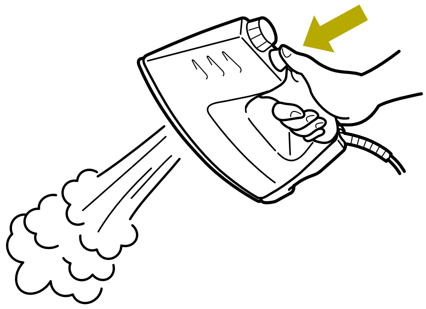
使い終わったら…

残ったスチームを出し切り、プラグをコンセントから抜く

スチーム･ボタンを押すか、スチーム･ダイヤルを時計回りに回し切り、タンクに残っているスチームを出し切ります。その後、温度設定ダイヤルを反時計回りに回し切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



警告 スチームを使用しているときや、使用直後でまだタンク内にスチームが残っている状態では、絶対にウォーター・キャップを開けないでください。スチームが噴き出して、ヤケドをする危険があります。



※スチーム・ダイヤルを反時計回りに回し切り、スチーム・ボタンを５秒以上押してください。この状態でスチームが出なくなれば、スチームがなくなっています（目安です）。

※使用直後は温度設定ダイヤルも熱くなっているため、十分注意して行ってください。

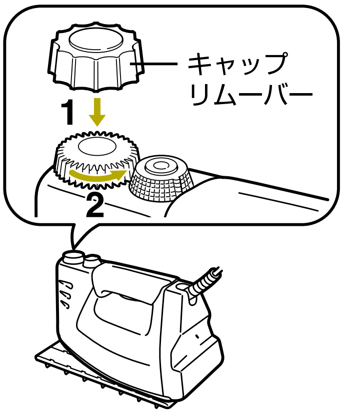
6

タンク内をすすぎ、保管する

❶ 付属のキャップリムーバーをウォーター・キャップにはめて（1）、ゆっくり反時計回りの方向に回して外します（2）。

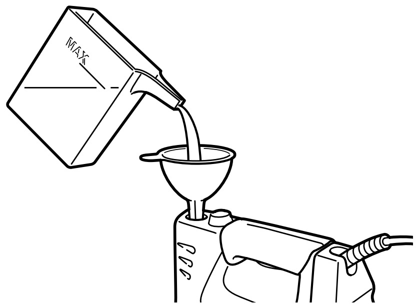


警告 タンク内にスチームが残っている状態では、絶対にウォーター・キャップを開けないでください。スチームが噴き出して、ヤケドをする危険があります。



❷ 付属のじょうごを使って、計量カップの水を数回に分けて、ゆっくりと注入する。

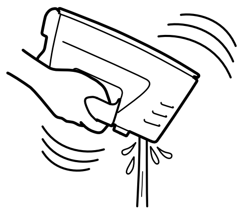
ヒント 計量カップの水を一気に注入すると、スチームが噴き出し、ヤケドの恐れがあるため、数回に分けてゆっくりと注入してください。徐々にボイラーを冷ますことができます。



❸ 内部の水がこぼれないようにアイロンをよく振り、タンク内をよくすすいでから、水を捨てる。

※ボイラー内の熱で、タンク内をすすいだ水が熱くなっています。水を捨てる際は、ヤケドにご注意ください。

※すすいだときに、白い粉が出ることがあります。これは水に含まれる石灰分で、ご使用上問題ありません。



❹ ウォーターキャップを時計回りに回し切り、しっかりと取り付け、保管する。

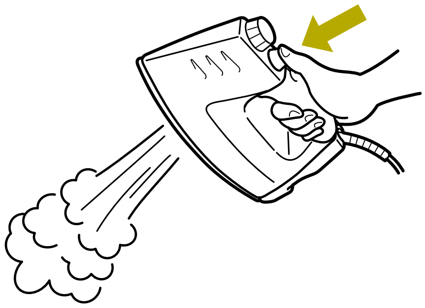
※しばらくお使いにならない場合は、十分に冷めた後、箱などに入れ、取扱説明書と共に保管してください。

水の足しかた

スチームの出が悪くなったときは、以下の手順で水を足してください。

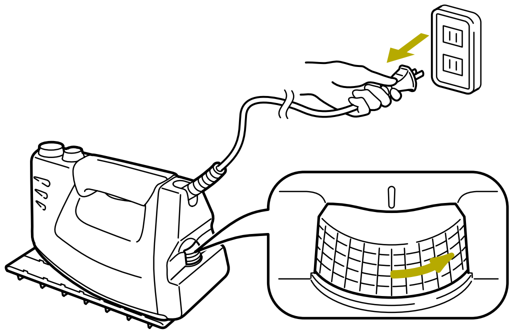
1 残ったスチームを出し切る

水を足す前に、スチーム・ボタンを押すか、スチーム・ダイヤルを時計回りに回し切り、タンクに残っているスチームを出し切ります。



2 プラグをコンセントから抜く

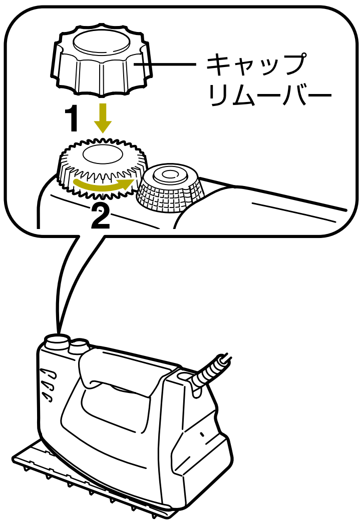
温度設定ダイヤルを反時計回りに回し切り、電源プラグをコンセントから抜きます。



3 ウォーター・キャップを外す

付属のキャップリムーバーをウォーター・キャップにはめて（1）、ゆっくり反時計回りに回して外します（2）。

> **警告** タンク内にスチームが残っている状態では、絶対にウォーター・キャップを開けないでください。スチームが噴き出して、ヤケドをする危険があります。



4 水を入れる

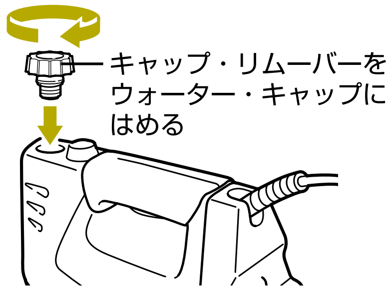
じょうごを使い、計量カップの水を数回に分けてゆっくりと注入します。

> **ヒント** 計量カップの水を一気に注入すると、スチームが噴き出し、ヤケドの恐れがあるため、数回に分けてゆっくりと注入してください。



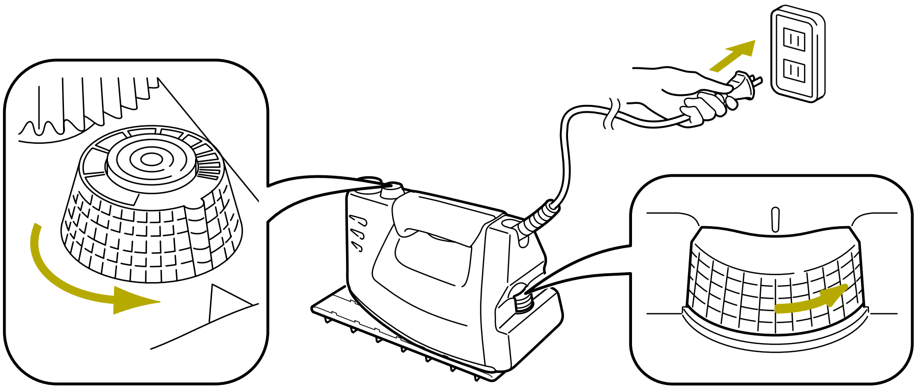
5 ウォーター・キャップをしっかりと閉める

付属のキャップ・リムーバーをウォーター・キャップにはめ、時計回りに回してウォーター・キャップを閉めます。



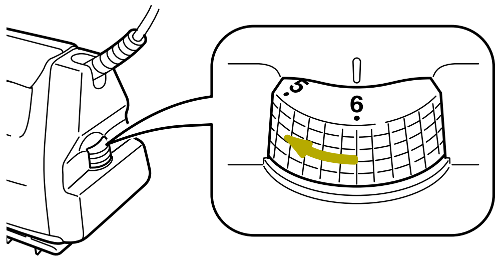
6 電源を入れる

スチーム・ダイヤルを反時計回りに回し切ります。温度設定ダイヤルを反時計回りに回し切り、プラグをコンセントに差し込みます。



7 アイロンの温度設定をする

温度設定ダイヤルを「6」の位置に合わせ、パイロットランプが消灯したら、ご使用になれます。



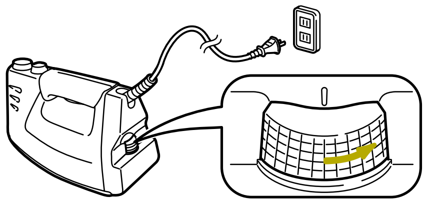
ドライアイロンとして使う

ワンポイントアドバイス

- 衣類の表示をよく確認し、布地に合った適正温度でかけることが大切です。（16 ページ「温度設定の目安」参照）適正温度以上でかけると、布地が焦げたり、縮んだりします。
- 2 種類以上の混紡の場合は、アイロン温度の低い布地に合わせてください。
- 合成繊維や絹は、熱だけでシワが伸びます。絹の場合は、水分があるとシミが付いたり、縮むこともあるのでご注意ください。
- 綿や麻、厚手の布地のときは、ドライアイロンよりも、スチームをたっぷり使ってかけたほうがきれいに仕上がります。（「スチームアイロンとして使う」（7 ページ参照））

1 確認する

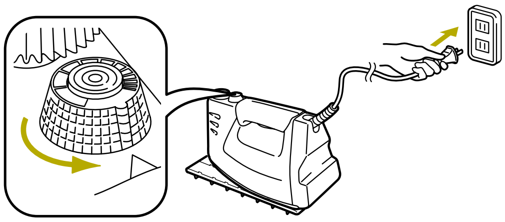
プラグがコンセントに差し込まれていないこと、温度設定ダイヤルが反時計回りに回し切った位置になっていることを確認します。



2 電源を入れる

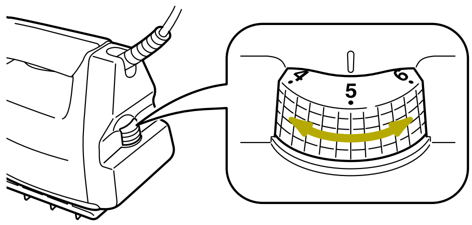
スチーム・ダイヤルを反時計回りに回し切り、プラグをコンセントに差し込みます。

※ 初めて使用する場合は、かけ面や内部ボイラーが熱になじむまで、多少のにおいが出ることがありますが、ご使用上、問題はありません。



3 アイロンの温度を設定する

温度設定ダイヤルを回して、布地に合わせてアイロンの温度を設定します。
パイロットランプが点灯します。



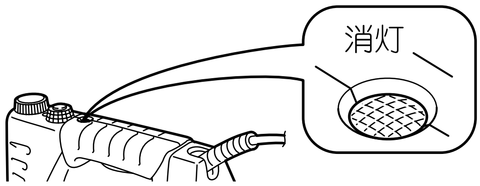
警 告

アイロンを高温設定で使用しているときや使用直後は、温度設定ダイヤルも熱くなっています。温度設定を変更するときは、ヤケドをしないように十分ご注意ください。

4 適温を確認する

パイロットランプが消灯したことを確認します。

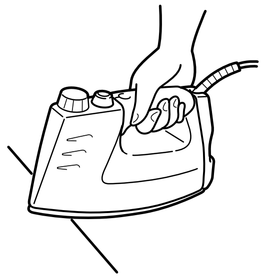
※ 温度設定をしてから、約４～５分後（目安）にパイロットランプが消灯し、アイロンかけができるようになります。



5 アイロンをかける

使用中は、パイロットランプが消点灯を繰り返します。

※アイロンを止めたり、極端にゆっくり動かしたりすると、布地に合った温度でも布地を傷めることがありますのでご注意ください。



警告

●アイロンは、**必ず付属の耐熱性ゴムマットの上に水平に置いてください。**使用中や使用直後のかけ面が熱くなっているアイロンは、絶対に、立てて置いたり、耐熱性ゴムマット以外の場所に置いたりしないでください。火災や故障の原因となります。

注意

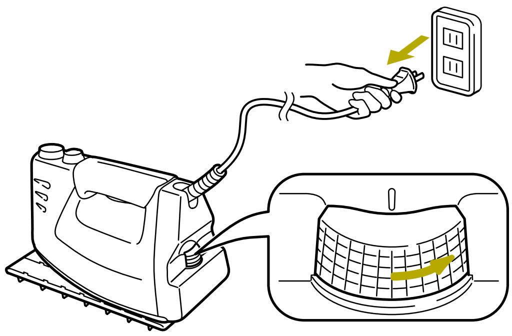
●使用中や使用直後は、アイロンのかけ面だけではなく、ウォーター・キャップや温度設定ダイヤルの周辺も高温になっています。ヤケドをしないよう十分にご注意ください。

※脱水直後の衣類にアイロンをかけないでください。
※しみ取り剤などと一緒に使用しないでください。

6 使い終わったら…
プラグをコンセントから抜く

温度設定ダイヤルを反時計回りに回し切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

※使用直後は温度設定ダイヤルも熱くなっているため、十分注意して行ってください。
※しばらくお使いにならない場合は、十分に冷めた後、箱などに入れ、取扱説明書と共に保管してください。



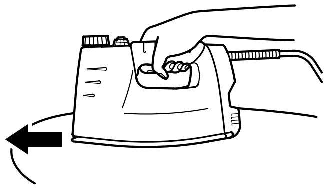
上手なアイロンのかけかた

アイロンかけの基本

アイロンは順序良くかける

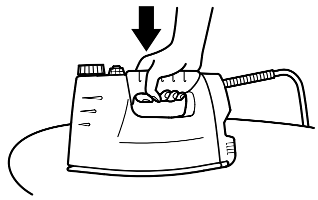
- 低温のものから高温のものへ、布地に合った温度でかけます。
- 複数の繊維が混じっている場合は、最も熱に弱い繊維に温度に設定してください。
- 熱に弱い繊維（合成繊維）にアイロンをかけるときは、目立たない場所で試しがけをしてください。
- アイロンがけの前に衣類を分類しておくと、時間のムダがありません。

軽くすべらせる



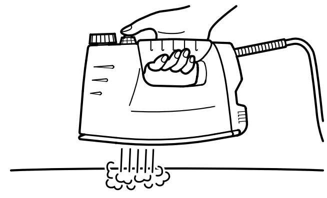
ワイシャツやハンカチの仕上げに。

しっかり押さえる



パンツやスカートの折り目付けや、頑固なシワ伸ばしに。

軽く浮かせて、スチームを当てる



毛足の長い繊維や衣類のにおい取り、セーターやネクタイのふっくら仕上げに。

上手にかけるコツ

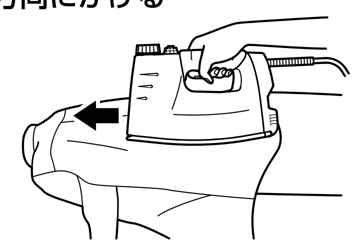
■ 知っていると便利

両手をうまく使う



かけやすいようにアイロンを持ち替えて。

一方向にかける



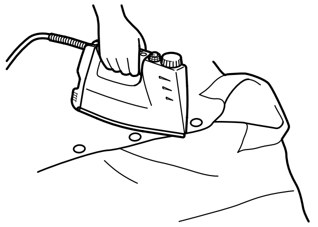
往復は戻りジワの原因になります。

縫い目は引っ張りぎみに



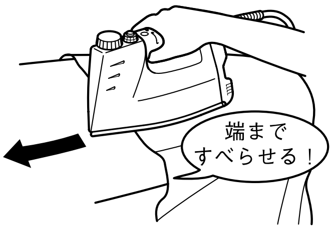
縫い目の細かいシワを伸ばすように。

ボタンの周りは、先端を使って



かけ面の先端をすべり込ませるように。

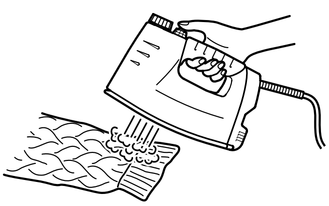
かけ面に布がからみつくときは …



静電気が発生しているので、衣類の端までアイロンをすべらせて、持ち上げるか、当て布をします。

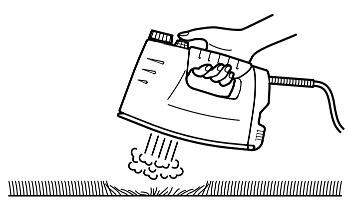
■ こんなときには、スチームを使うと便利

伸びて形のくずれたセーターをリフレッシュ



袖口や衿もとの伸びて形のくずれた部分に、スチームをたっぷりかけ、熱いうちに形を整えます。

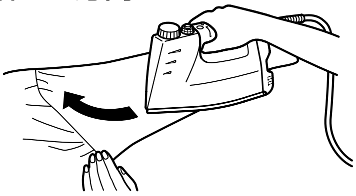
カーペットのへこみ取りに



家具を置いたあとのへこみにスチームをかけ、硬めのブラシで整えます。
※ 電気カーペットには使用しないでください。

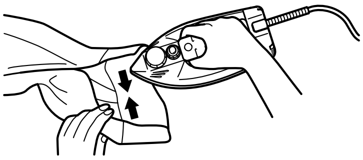
■ ワイシャツ

❶ 袖は一方向に



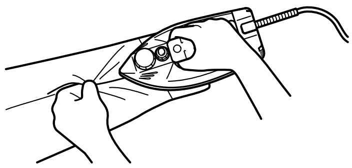
袖の縫い目を手前にして、袖山に向かって一方向にかけます。

❷ カフスは両端から中央に



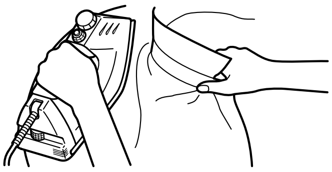
カフスを開き、内側の両端から中央に向けて軽くすべらせます。

❸ タックは先端で



カフスを合わせ、カフスボタンを下にして､先端を使ってタックを押さえます。

❹ 肩は引っ張りぎみに



アイロン台の先端を利用し、引っ張りぎみにかけます。

❺ 衿は両側から中央へ



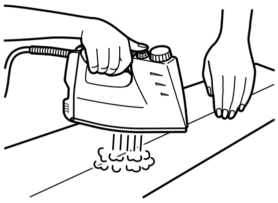
衿の端を引っ張るようにして、両端から中央に向かって半分ずつかけます。

スプレーのりを使う場合は …

衿やカフスなどのパリッとした仕上げに使います。
洗濯物をよく乾かしてから、必ずドライでアイロンをかけます。
少し固めに仕上げたいときは、「スプレーのり」→「アイロンかけ」を繰り返します。

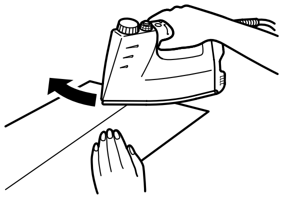
■ パンツ

❶ ひざのたるみを取る



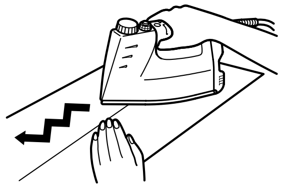
アイロンを浮かせて、スチームをらせん状にたっぷりかけます。

❷ すそを押さえがけする



すそから股下までの縫い目を合わせて、すその前後を軽く押さえます。

❸ 折り目を決める



中央の縫い目に沿って、上下ジグザグに折り目を押さえがけします。折り目にスチームをたっぷりかけて押さえると効果的です。

温度設定の目安

	ドライアイロン		スチームアイロン
設定	1～4	5～6	6
かけ面の温度	約 60 ～ 100℃	約 120 ～ 140℃	約 180℃
繊維名	アクリル アセテート ポリウレタン ポリプロピレン ナイロン	絹 毛 レーヨン ポリエステル	綿、麻

ヒント このアイロンは、強力スチームが繊維に浸透し、厚手の綿やしわの伸びにくい麻などの素材にもしっかりアイロンがかけられます。たっぷりのスチームでのアイロンがけは、毛足の長いウール（毛）にも最適です。

※ 上記の表は目安です。より詳細な取り扱いの注意に関しては、衣類のアイロンがけの指示をご参照ください。

お手入れのしかた

お手入れは、必ずプラグをコンセントから抜き、アイロンが完全に冷めてから行ってください。

本体

● 本体は水洗いせず、やわらかい布でふいてください。

かけ面

● かけ面が汚れたときは、お湯を含ませ固く絞った布で拭き取ってください。

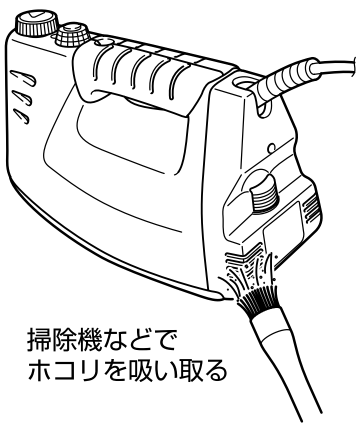
※ 石灰分除去剤は絶対に使用しないでください。

※ 研磨剤やクレンザー、シンナー、ベンジン、金たわしなどでかけ面を磨かないでください。変形したり傷が付きます。

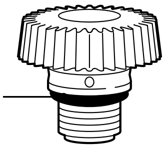


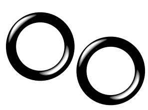
● 温度設定ダイヤルの下部や、かけ面とタンクの隙間にホコリがたまった場合は、掃除機などで吸い取ってください。

※ 温度設定ダイヤルの下部や、かけ面とタンクの隙間にたまったホコリをそのままにしておくと、ショートしたり、温度調節機能が低下する原因となることがありますのでご注意ください。



ウォーター・キャップのパッキンについて





ウォーター・キャップに付いているパッキンが、切れたり消耗した場合は、付属のスペアパッキンと交換してください。
スペアパッキンがなくなった場合は、弊社サービスセンター（裏表紙参照）までご連絡ください。

故障かな？と思ったら

使用中に異常が生じた場合は、下記をもう一度チェックしてみてください。それでも異常があるときは、修理をご依頼ください。なお、修理のご依頼は「アフターサービスについて」（裏表紙）を参照してください。ご自分での分解／修理／改造はおやめください。

	症状	予想される原因	対処のしかた
1	熱くならない	プラグがコンセントから抜けている。	プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
		アイロンの温度が設定されていない。	温度設定ダイヤルで、布地に合わせてアイロンの温度を設定してください。
2	使用中に、パイロットランプが消点灯する	使用中は、ボイラー内の温度を調整するためパイロットランプが点灯したり、消灯したりします。	故障ではありません。
3	スチームが出ない	タンクに水が入っていない。	水を入れてください。（7 ページ参照）
		温度設定ダイヤルが「6」の位置に設定されていない。	温度設定ダイヤルを「6」の位置に設定してください。
		適温になっていない。	通電して４～５分後（目安）にパイロットランプが消灯しますが、この時点ではボイラー内の温度が充分ではないため、スチームが弱くなります。1 ～ 2 分後にパイロットランプが再び点灯して、勢いのよいスチーム噴射が始まります。
4	連続スチームのスチーム量が少ない	連続スチームは、タンクに満水量（約 200mL）の水が入っているときは約 10 分間可能ですが、水量が少ないと連続時間も短くなります。	「水の足しかた」（11 ページ）を参照し、水を足してください。
		スチームの出る量が少ない位置に、スチーム・ダイヤルが設定されている。	スチーム・ダイヤルを今より時計回りの方向に回してください。
5	布地が焦げる	ドライアイロンを使用するときに、布地に合った温度に設定されていない。	布地に合った温度を設定してください。
		熱に弱い繊維にアイロンをかけるとき、当て布を使用していない。	当て布を使用してください。
6	使用中にパイロットランプが点灯したままになっている	アイロンの自動温度調節機能が故障している。	温度調節ダイヤルを反時計回りに回し切ってください。それでもパイロットランプが点灯したままになっている場合は、弊社サービスセンター（裏表紙参照）にご連絡ください。

仕　様

製品名称／型式番号		デロンギ ボイラー内蔵型スチームアイロン／ 6299/2N
種類		スチームアイロン（連続スチーム・ショットスチーム）／ドライアイロン兼用
定格	電圧／周波数	交流 100V ／ 50/60Hz
	消費電力	800W
外形寸法		幅 120 ×奥行 255 ×高さ 150mm
重量		1.8kg
材質		本体／ PC　かけ面／アルミニウム（セラミック・コーティング）
タンク容量		約 200mL
自動温度調節器		約 60 ～ 180℃
温度過昇防止装置		温度過昇防止器
付属品		計量カップ（約 200mL）、耐熱性ゴムマット、じょうご、キャップリムーバー、スペアパッキン（2 個）

アフターサービスについて

1)使用中に異常（★）が生じた場合は、ただちに電源を切り、プラグをコンセントから抜いてください。その後、18ページの「故障かな？と思ったら」で調べても正常に機能しない場合は、お求めの販売店または弊社サービスセンター（下記参照）にご相談ください。

〈★以下のような場合には、点検および修理が必要です〉

- 使用中、電源コードおよび電源プラグ、コンセントが異常に熱くなる
- 本体に水などの液体をこぼした
- 電源コード、電源プラグが変形／破損している
- 本体に強い衝撃（転倒・落下）を与えた
- 取扱説明書どおりに使用しているのに、正常に機能しない

2)万一、故障／損傷した場合は、保証書に記載されている販売店に**1.お求め時期　2.製品名称と型式番号　3.故障の状況**——を連絡のうえ、修理を依頼してください。

※宅急便等を利用して弊社サービスセンター（下記参照）に直送される場合は、必ず故障の状況を記したメモを商品パッケージ（梱包箱）に同封してください。

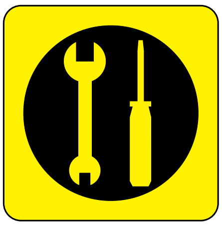
※お送り先については、事前にお電話あるいはホームページ（http://support.delonghi.co.jp）にてご確認ください。

3)保証期間中（1年）は、保証書に記載されているものについては、無償で修理いたします。ただし、安全上および使用上の注意を無視しての故障、規格外に改造をしたものは、その限りではありません。また、保証期間が過ぎたものについては、有償で修理いたします。

4)補修用性能部品の保有期間について

弊社では、この製品の補修用性能部品について、最終輸入日を起点に5年間保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

5)真心点検のお薦め：長い期間ご使用いただくために、専門技術者による点検（お預かり）をお薦めします。点検の依頼および料金などにつきましては、弊社サービスセンターまでお問い合わせください。



※下の枠内に、ご購入年月日を記入してください。点検の目安になります。

ご購入年月日:	年	月	日

6)デロンギ再資源化システムについて

ご不用になった製品は、同梱の再資源化システム付ステッカーを製品本体に貼り、下記の要領に従い、弊社サービスセンターまでお送りください（再資源化システム付ステッカーを製品に同梱しています）。素材ごとに分別し、再資源化いたします。



送料について：再資源化の費用は弊社が負担いたしますが、送料はお客様のご負担（元払い）となります。予めご了承ください。

梱包について：製品の入っていた箱（元箱）に入れてお送りください。元箱がない場合は、段ボール箱に入れるか、エアーパッキン等にくるんでください。

※外箱または送り状に、必ず「再資源化」と明記してください。

※お送り先については、事前にお電話あるいはホームページ（http://support.delonghi.co.jp）にてご確認ください。

以上、アフターサービスについてご不明の点がございましたら、お求めの販売店または弊社サービスセンターまでお問い合わせください。

デロンギ・ジャパン サービスセンター（受付時間　土、日、祝日を除く毎日　9:30〜18:00）

● コールセンター　修理について………Tel. 0120-804-280
Tel. 0120-692-885
お問い合わせ………Tel. 0120-064-300
Tel. 0120-692-880
／ Fax. 045-450-3291

〒221-0022　神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-9　安田倉庫(株)内4号ビル

ホームページでのお問い合わせ（URL）——— **http://support.delonghi.co.jp**

DeLonghi デロンギ・ジャパン株式会社

〒101-0044　東京都千代田区鍛冶町1-5-6　第3大東ビル

www.delonghi.co.jp　イタリアのライフスタイル情報満載！会員登録でプレゼントのチャンスも！